

4 昭和47年災害

この災害では、明治26年（1893）以来80年ぶりといわれる宍道湖の氾濫により周辺一帯が水没

した。また、江の川流域では、邑智郡内の家屋の大半が水没し、大きな被害となった。

(1) 気象状況

6月3日に入梅以来、島根県地方では陽性型の梅雨状態が続き、6月末までの雨量は例年より少

なかった。しかし、7月に入り梅雨前線の活動が活発となった。

■7月9日

早朝、いったんは日本海まで北上した前線は、低気圧の東進とともに南下し、夜になって瀬戸内海を東西にのびて、西は華中にある低気圧に連なった。そして、太平洋高気圧から湿った南西風が西日本に流入するとともに、オホーツク海の高気圧も次第に勢力を増してきた。これに加えて台風6、8号が南方海上にあって、一層前線を刺激していた。このため、島根県地方では9日早朝から断続的に雨となり、夜には県西部を中心にさらに雨が強まってきた。

■7月12日

9日から12日9時までの総雨量は、三隅町の612mmを最高に、350～600mmと記録的な豪雨となった。この間の局地的な気圧配置はほとんど変化がなく、県内50箇所の観測所のうち3分の1近くが水没で観測不能、また、電話回線の故障で通報不能となった。このため実際には、さらに雨量の多かったことも考えられる。

午後になって、県下に停滞していた強い雨域は次第に東に移動しはじめ、停滞していた梅雨前線も南下をはじめ、県下での雨は弱まった。また、この頃から江の川は減水しはじめた。

■7月10日

9時までの日雨量は、県西部の浜田市、匹見町を中心に80～120mmに達し、東部では50～80mmであった。前線は停滞し、8時から10時に県西部に強い雨をもたらしたため、松江地方気象台は大雨・洪水注意報を発表した。さらに、午後になって前線の活動が山陰地方全域で非常に活発になると予想されたため、14時30分、県東・西部に対して大雨・洪水警報を発表し、厳重な警戒を呼びかけた。

■その後

13日5時20分、警報・注意報は全て解除され、その後、散発的に小雨が降る程度となり、15日早朝でこの大雨はやんだ。宍道湖の増水及び湖岸決壊で、付近の市町村に流れ込んだ水も13日早朝から次第に減水しはじめた。

降り続く雨は、県西部の浜田市・三隅町付近の沿岸部を中心に集中豪雨となり、時間雨量30～40mmとなった。

この豪雨による降水量についてであるが、9日9時から15日9時までの6日間の総雨量は、三隅町の709mmを最高に、隠岐及び東部半島部と伯太方面を除いてほとんどの地域が500mm以上に達した。特に被害の大きかった地域は、鹿足郡及び浜田市周辺の地域、江の川本川流域の大和村、川本町、桜江町、邑智町、江津市方面と、80年来といわれる宍道湖の氾濫による被害を受けた松江市及び周辺市町村であった。

■7月11日

11日になっても、気圧配置は全く崩れず豪雨は続き、9日から11日9時までの2日雨量は、西部で200～400mm、東部で100～300mmとなった。8時過ぎ浜田市付近で雷雲が発達し、局地豪雨が予想されたことから、松江地方気象台は8時45分に大雨・洪水警報、雷雨注意報を発表し、再び警戒を促した。その後も江の川流域の江津・川本・口羽及び出雲・神西付近を中心に強い雨が続いた。県内のほとんどの河川が警戒水位を大きく超え、中でも川本町内の江の川では6.0mの警戒水位に対して、13.98mの驚異的な水位を記録した。

雨量観測表

(日界：9時)

単位：mm

観測地	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日	7月13日	7月14日	合計
松江	38	124	213	42	44	14	475
浜田	117	219	245	42	36	18	677
西郷	19	38	53	18	49	11	188
鹿島	33	98	216	45	46	12	450
出雲	31	155	254	36	36	12	524
安来	41	136	177	54	53	21	482
伯太	32	160	193	57	39	31	512
掛合	61	197	190	75	31	24	578
横田	51	148	174	52	27	46	498
赤名	52	139	162	52	12	36	453
大田	83	193	244	45	37	8	610
江津	90	168	277	38	25	19	617
川本	79	171	182	50	16	43	541
瑞穂	51	196	185	44	14	44	534
下来原	109	280	200	44	25	19	677
三隅	82	333	197	55	26	16	709
美都	80	212	198	69	15	21	595
豊田	79	212	211	67	17	16	602
津和野	85	101	207	75	14	18	500
五箇	23	28	51	10	48	7	167

出典：「昭和47年7月豪雨災害誌」

河川の水位状況

河川名	観測所	日	時	最高水位(m)	警戒水位(m)
大橋川	伊勢宮町	12	5	2.06	1.15
意宇川	出雲郷橋	11	18	2.75	2.10
伯太川	弘鶴橋	11	12	3.28	2.20
斐伊川	蕪上橋	11	21	4.23	3.50
赤川	神原	11	20	4.30	2.75
〃	神田橋	11	15	2.50	1.82
斐伊川	三成大橋	11	21	3.35	2.50
大馬木川	大馬木橋	11	16	2.05	1.50
新連川	荘原	12	11	2.60	1.20
斐伊川	源光寺橋	11	21	4.05	2.50
神戸川	馬木	11	18	5.30	3.00
〃	古志橋	11	22	4.25	3.00
〃	乙立橋	11	16	4.00	1.50
平田船川	船橋	12	24	2.58	1.00
十箇川	持田橋	11	19	2.70	2.00
静間川	法尺橋	11	16	4.00	2.10
江川	川本	12	7	13.98	6.00
下府川	下府	11	18	4.30	2.10
益田川	新橋	11	13	3.05	2.50
高津川	高角橋	11	24	6.10	3.10
〃	旭橋	11	24	6.50	2.50

出典：「昭和47年7月豪雨災害誌」

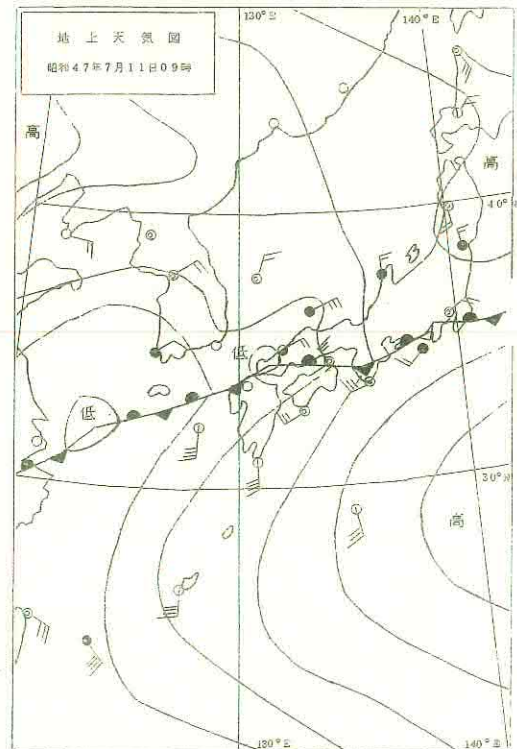
降水量の最大値

単位：mm

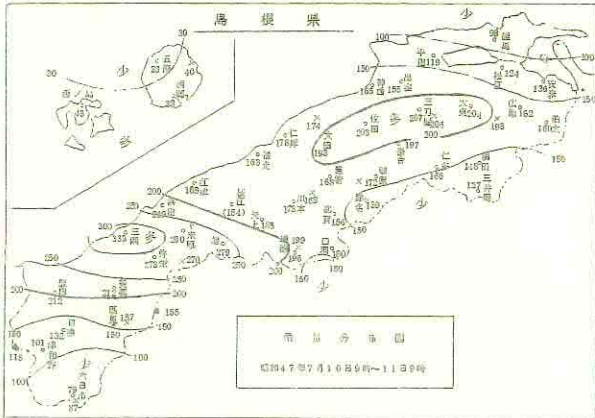
地点	24時間最大値		1時間最大値	
	日	時	日	時
松江	222.0	7月10日21時~11日21時	40.0	7月11日12時10分~13時10分
浜田	317.0	7月10日20時~11日20時	30.5	7月9日16時00分~17時00分
西郷	60.0	7月13日12時~14日12時	11.0	7月11日05時10分~06時10分
鹿島	235.5	7月11日10時~12日10時	29.5	7月11日12時20分~13時20分
出雲	264.5	7月10日20時~11日20時	40.0	7月11日11時50分~12時50分
伯太	220.0	7月11日12時~12日12時	25.5	7月11日13時00分~14時00分
掛合	240.5	7月11日12時~12日12時	42.0	7月12日08時50分~09時50分
赤名	199.0	7月11日02時~12日02時	29.0	7月11日15時40分~16時40分
大田	272.0	7月10日15時~11日15時	45.0	7月11日12時00分~13時00分
下来原	334.0	7月10日18時~11日18時	49.0	7月11日02時50分~03時50分
美都	280.0	7月10日20時~11日20時	37.0	7月10日22時50分~23時50分
豊田	299.5	7月10日20時~11日20時	38.0	7月11日00時10分~01時10分 7月11日15時50分~16時50分
津和野	259.5	7月11日15時~12日15時	33.5	7月11日16時05分~17時05分
六日市	204.5	7月10日23時~11日23時	48.5	7月11日21時20分~22時20分
横田	197.0	7月11日13時~12日13時	37.0	7月11日18時00分~19時00分
瑞穂	252.5	7月10日23時~11日23時	34.0	7月11日14時55分~15時55分
仁摩	256.0	7月10日20時~11日20時	35.0	7月11日12時10分~13時10分
禰光	235.0	7月11日11時~12日11時	32.0	7月11日11時50分~12時50分
旭	304.5	7月10日18時~11日18時	40.5	7月11日02時50分~03時50分
口羽	248.5	7月10日23時~11日23時	33.0	7月11日18時50分~19時50分
弥栄	340.5	7月10日19時~11日19時	44.0	7月10日19時10分~20時10分
匹見	266.0	7月11日14時~12日14時	40.0	7月11日20時30分~21時30分
日原	272.0	7月11日14時~12日14時	40.5	7月10日22時50分~23時50分
西ノ島	60.0	7月11日11時~12日11時	11.5	7月9日10時30分~11時30分
波佐下	333.0	7月10日19時~11日19時	40.0	7月11日02時50分~03時50分
匹見上	277.5	7月10日23時~11日23時	46.0	7月11日20時50分~21時50分
布部	208.0	7月11日12時~12日12時	28.0	7月11日13時10分~14時10分
来島	220.0	7月11日13時~12日13時	41.0	7月11日15時05分~16時05分
鹿足	214.0	7月11日00時~12日00時	49.5	7月11日21時30分~22時30分

出典：「昭和47年7月豪雨災害誌」

地上天気図 (昭和47年7月11日9時)



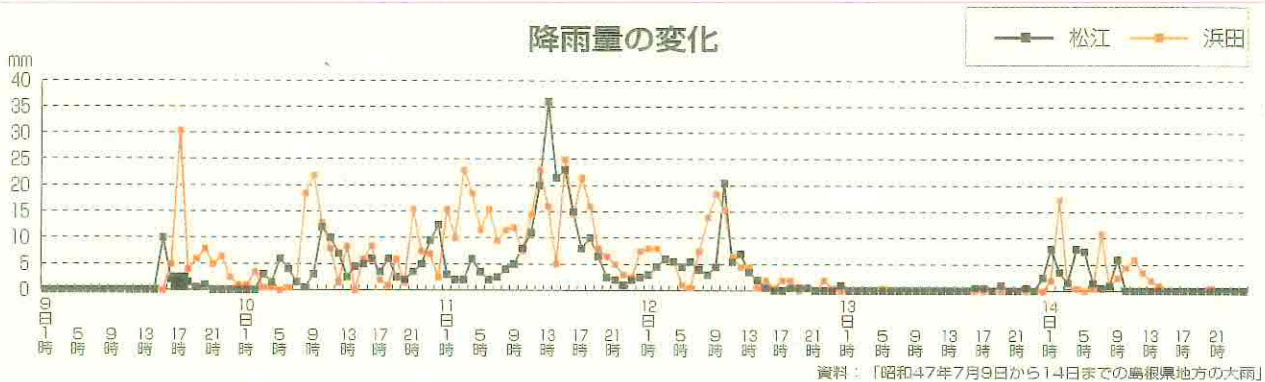
雨量分布図 (昭和47年7月10日9時~11日9時)



雨量分布図 (昭和47年7月11日9時~12日9時)



降雨量の変化



気象官署極値表 (昭和47年7月)

		松江地方気象台		浜田測候所		西郷測候所	
		観測値	起時	観測値	起時	観測値	起時
風	最大風速	WSW 12.0m/s	9日11時50分	WSW 14.2m/s	9日15時00分	WSW 14.8m/s	9日09時40分
	最大瞬間風速	WSW 19.2m/s	9日11時50分	SSW 19.2m/s	9日05時40分	WSW 31.4m/s	9日09時25分
雨	総降水量	421.0mm	9日01時00分から 13日24時00分まで	621mm	9日01時00分から 13日24時00分まで	127.5mm	9日00時20分から 13日24時00分まで
	日降水量の最大値	200.5mm	12日24時00分まで	317.0mm	11日20時00分まで	56.5mm	11日24時00分まで
	1時間降水量の最大値	40.0mm	11日13時10分まで	30.5mm	9日17時00分まで	8.0mm	11日13時10分まで
	10分間降水量の最大値	13.5mm	11日12時30分まで	10.5mm	9日16時20分まで 11日11時40分まで	2.5mm	11日13時00分まで

出典: 「昭和47年7月豪雨災害誌」



豪雨に襲われた三陽町 (那賀郡三陽町)



水没した出雲空港 (簸川郡斐川町)

(2) 被害状況

7月9日から降り始めた雨は、15日までの6日間に、隠岐及び県東部の半島部と伯太方面を除く県下全域に500mm以上の豪雨をもたらした。このため、各地で河川が氾濫して家屋の流失や床上浸水があり、さらに、がけ崩れ、山崩れによる家屋の倒壊で多くの死傷者もでた。また、道路や橋梁は至る所で寸断され、通信も途絶したため、多くの市町村で孤立地区がでた。

特に、県中央部では、江の川の氾濫で建物や農地が濁流に没し、壊滅的な被害を受けた市町村もあり、また、県西部の高津川流域の市町村でも大

きな被害を受けた。さらに、県東部では、明治26年（1893）以来80年ぶりといわれる宍道湖の氾濫により周辺市町村では床上浸水が発生し、穀倉地帯も水没するという激甚な被害であった。

この豪雨による総被害額は、約840億円にのぼった。その内訳としては、土木関係被害が最も大きく、約326億円と全体の38.76%を占め、次いで、農林水産関係被害が約277億円で32.97%、さらに、住宅等の家屋被害が約130億円で15.48%となっている。

■人的被害及び家屋被害

人的被害については、死者・行方不明者が28名にも達したが、このうち20名は崩壊危険区域に指定されていない区域において、がけ崩れ・山崩れのため崩壊した家屋の下敷きとなった犠牲者である。

また、家屋被害については、がけ崩れ、山崩れによるもののほか、江の川及び高津川流域において、濁流による倒壊・流失や、床上浸水、さらには、宍道湖周辺地域における、湖の氾濫による床上・床下浸水といった被害が特徴的であった。

人的被害状況

	死 亡	行方不明	重 傷	軽 傷	計
松江市	—	—	—	2	2
浜田市	—	—	1	3	4
益田市	1	—	1	6	8
大田市	—	—	—	1	1
江津市	—	1	—	4	5
鹿島町	—	—	—	1	1
宍道町	1	—	2	—	3
加茂町	—	—	—	6	6
木次町	2	—	1	—	3
三刀屋町	4	1	3	1	9
掛合町	5	—	2	—	7
頓原町	—	—	—	1	1
多伎町	—	—	—	2	2
大社町	—	—	1	—	1
温泉津町	—	—	—	3	3
川本町	1	—	2	13	16
羽須美村	—	—	1	5	6
石見町	2	—	—	—	2
桜江町	—	—	1	1	2
金城町	1	—	—	—	1
三隅町	1	—	4	2	7
美都町	4	—	1	1	6
匹見町	—	—	1	1	2
柿木村	3	—	1	3	7
六日市町	1	—	—	1	2
計	26	2	22	57	107

出典：「昭和47年7月豪雨災害誌」

総被害額

区 分	被害額(千円)	比率(%)
土 木 関 係	32,590,415	38.76
住 家 等 家 屋 関 係	13,010,653	15.48
商 工 業 関 係	7,439,035	8.85
農 林 水 産 関 係	27,723,980	32.97
厚 生 福 祉 関 係	275,938	0.33
交 通 お よ び 通 信 関 係	1,895,819	2.26
電 気、ガ ス、お よ び 水 道 関 係	399,359	0.48
文 教 施 設 関 係	493,252	0.59
公 営 住 宅 関 係	173,605	0.21
警 察 施 設 関 係	17,048	0.02
そ の 他 公 用 お よ び 公 共 施 設 関 係	45,217	0.05
計	84,064,321	100.00

出典：「昭和47年7月豪雨災害誌」



水没した松江市街地（松江市）

■土木関係被害

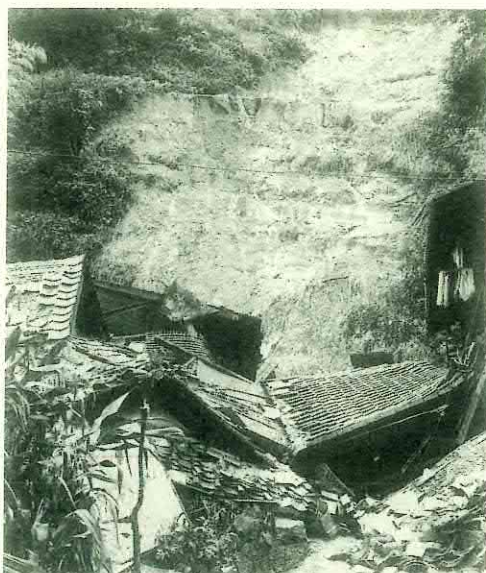
豪雨が長い期間にわたり、しかも強い雨域が県内を順次移動し、その間止み間もなく降り続いたため、県下の各地で山崩れ、がけ崩れが発生した。

また、河川も警戒水位を超えて氾濫し、堤防、道路、橋梁等の決壊や流失が起こり、土木関係施設は県下全域で大きな被害を被った。

土木関係被害概況

区 分	国 関 係		県 関 係		市 町 村 関 係		計	
	箇所数	被害額 (千円)	箇所数	被害額 (千円)	箇所数	被害額 (千円)	箇所数	被害額 (千円)
河 川	84	5,631,880	2,702	13,436,797	1,816	2,698,729	4,602	21,767,406
道 路	222	465,329	2,078	4,661,320	4,231	3,362,353	6,531	8,489,002
橋 梁	—	—	18	253,850	109	861,553	127	1,115,403
砂 防	—	—	285	893,185	—	—	285	893,185
公園、都市施設等	—	—	1	225	31	115,586	32	115,811
港 灣、空 港	—	—	15	206,825	2	2,783	17	209,608
計	306	6,097,209	5,099	19,452,202	6,189	7,041,004	11,594	32,590,415

出典：「昭和47年7月豪雨災害誌」



木次駅裏の山腹崩壊（大原郡木次町）



地すべりに襲われた家屋（簸川郡佐田町）



土石流に襲われた家屋（鹿足郡六日市町）

■47年災害 ～柿木村での体験談から～

47年災害を体験した人の話を以下に紹介する。

「災害があった日は、夕方からまさにバケツをひっくり返したような雨が降っていた。普通の雨なら空気のなかに水滴（雨）が降ってくるという感じだが、この時は見渡す限り一面水（雨）で、この中に本当に空気があるのだろうかと思う程であった。

夜7時くらいになり豪雨の異常さに気づき、家族を連れて山際の田んぼに避難した。田んぼの石垣の下に家族を避難させ、その上にシートをはって簡易テントのようなものを作り雨をよけた。しかし、段々雨の重みでシートが沈んでくるので、つかえ棒を作ろうと思い竹を切りに藪に入ったところ、ゴォーという音とともに山がすべってきた。とっさに大木の陰に身を隠すと、まさに自分の横を土砂が流れていった。あわてて家族の方をうかがうと、石垣の下にいたため土砂が上を通り抜けたようで、幸い皆無事であった。大量の雨を含んで山は飽和状態だったのであろう、この崩落と同時にあちこちでガラガラと音をたてて山が崩れていった。山が飽和状態になるというのは普通では考えられないが、当時自宅の裏山の点検に入った人の話によれば、歩こうとしても山が雨を含んでしまい、ずぶずぶと長靴が埋まって歩くことすらできなかったそうである。

復旧作業は迅速に行われていった。柿木村は、昔から度々災害に遭っていてある意味災害になれていることから、災害復旧に関しても役場にベテラン職員がたくさんいた。彼らの指導のもと、状況把握、自衛隊の要請、主要道路の復旧などの作業が迅速に行われた。役場職員であった自分も作業に取りかかった。

まず土砂で埋まった主要道路の復旧作業を行った。とりあえず単車が通れる道に復旧することになり、あらゆる機械を借り上げ、2週間以上かかって復旧作業を行った。この間、村は孤立状態であった。

その後、県及び他県から災害復旧の応援班が駆けつけ作業が進められた。昼間は測量、夜は図面おこしという日々が続き、膨大な量の仕事をこなすため、約半年間自宅に帰らず作業を行った。」

このような懸命の作業の結果、無事復旧がなされたのである。また、この災害を機に、村内の多くの溪流に砂防工事が施され、安全な村づくりに貢献している。



土石流により一面石河原と化した柿木村



懸命の復旧作業によって通れる状態になった道路

■災害救助の状況

7月10日15時に県災害対策本部が設置され、直ちに防疫及び救助にあたった。本部は報告される被害状況に基づき、邑智郡の各町村をはじめとする7市14町村に逐次災害救助法を適用して、被災者の救援、救護にあたった。災害救助については、警察官、消防職員、消防団員、自衛隊員等が道路の警戒、救援物資の輸送、引水後の流木・泥土の処理、給水支援、防疫等に献身的な活動を続け、災害直後の応急措置の推進に大きな役割を果たした。

また、激甚な被害により有線の通信回線が不通となった江の川流域では、被害状況の把握が極めて

困難であったが、県内アマチュア無線クラブ員の活躍により災害初期に必要な情報の収集ができた。

知事は災害発生直後、急遽自衛隊のヘリコプターに搭乗して被災地に向かい実情を把握し、応急復旧作業、被災者の救援・救護、仮設住宅の建設、応急復旧資材の確保、災害直後の物価高騰の抑制、労務者の確保などあらゆる措置を講じた。

一方、この豪雨の被害状況が各地に報じられると、天皇、皇后両陛下からは御下賜金を賜わり、地方公共団体、その他全国組織団体をはじめ、義援金、見舞金、義援物資等が寄せられた。

避難所設置及び収容状況

市町村名	設置数 (箇所)	開設期間	開設延日数 (日)	収容延人員 (人)	市町村名	設置数 (箇所)	開設期間	開設延日数 (日)	収容延人員 (人)
松江市	44	7.11~7.17	191	16,064	玉湯町	1	7.12~7.14	3	24
浜田市	12	7.11~7.16	38	844	横田町	5	7.11~8.11	33	777
出雲市	35	7.11~7.17	81	2,893	大東町	102	7.11~7.14	730	1,320
益田市	46	7.11~7.13	110	11,584	三刀屋町	85	7.11~7.14	340	357
大田市	2	7.11~7.12	4	160	掛合町	28	7.11~7.14	40	290
江津市	23	7.11~7.24	139	12,432	多伎町	6	7.11~7.16	36	188
平田市	7	7.12~7.15	28	1,003	湖陵町	2	7.12~7.17	8	471
宍道町	9	7.11~7.15	32	1,856	大社町	7	7.11	7	537
加茂町	7	7.11~7.17	49	429	温泉津町	5	7.10~7.13	12	144
木次町	24	7.10~7.16	168	658	仁摩町	3	7.11~7.12	6	170
斐川町	1	7.12~7.24	14	7,335	石見町	4	7.11~7.12	8	140
川本町	13	7.11~8.11	32	36,756	旭町	18	7.11	18	61
邑智町	20	7.11~8.10	346	20,121	津和野町	9	7.11	9	979
大和村	18	7.11~7.31	21	7,963					
羽須美村	4	7.11~7.21	25	1,457					
桜江町	46	7.11~8.14	873	38,589					
三隅町	16	7.11~7.20	49	1,571					
匹見町	4	7.11~7.13	12	480					
日原町	10	7.11~7.22	101	524					
柿木村	7	7.12~7.30	30	2,689					
六日市町	13	7.11~7.14	52	1,483					
					計	636		3,645	172,349

出典：「昭和47年7月豪雨災害誌」



建設大臣を迎えるための対策会議（益田市）



自衛隊の救援活動（大原郡加茂町）